生けるガラス

中川幸夫の花器

GLASS OF LIFE / LIFE OF GLASS
YUKIO NAKAGAWA

2020.9.5 sat.-12.13 sun.

休 館 日：9月15日(火)、10月20日(火)、11月17日(火)
会　　場：石川県能登島ガラス美術館　展示室A・D
観 覧 料：一般 800(700)円、中学生以下無料
※高校生以上は一般料金
※( )内は20名以上の団体料金および前売料金
※前売券はローソン・ミニストップ、ファミリーマート、セブン-イレブンで取り扱い(JTB商品番号 0225997)
開館時間：午前9時～午後5時(12月から午後4時30分まで) ※入館は閉館の30分前まで
主　　催：石川県能登島ガラス美術館(公益財団法人七尾美術財団)
協　　力：あーとらんどギャラリー、浦上蒼穹堂、富山県美術館、日本女性新聞社、有限会社フォトス、や和らぎ たかす ※50音順
後　　援：七尾市教育委員会

聖なる書／1994年／カーネーション、自作ガラス　撮影：中川幸夫

石川県能登島ガラス美術館
NOTOJIMA GLASS ART MUSEUM

生けるガラス

中川幸夫の花器

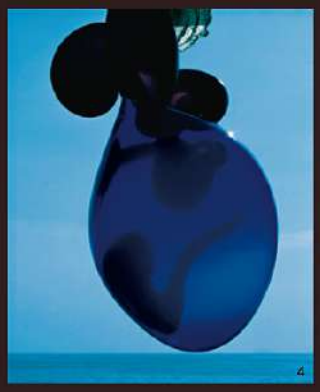
GLASS OF LIFE / LIFE OF GLASS
YUKIO NAKAGAWA

2020.9.5 sat.-12.13 sun.

香川県丸亀市生まれの中川幸夫(1918-2012)は既存の華道流派に属することなく、独自の花の表現を追求した孤高のいけばな作家です。3歳の時に事故による怪我が元となって脊椎カリエスを患った中川は、大阪の印刷会社で働くも、23歳の時に病気のために丸亀に帰郷し、池坊に所属していた伯母の元でいけばなを学びました。その後、作庭家の重森三玲が主宰する前衛いけばな研究グループ「白東社」に参加し、流派を超えた前衛いけばなの世界で活動します。38歳で東京に活動の場を移しますが、流派に属さないために弟子を取ることもできなかった中川は、極貧生活の中で自身のいけばなを貫きました。

花が生きて死ぬまでの姿を見つめ、朽ちていく過程をサディスティックとも言える手法で捉えた作品群は、中川の代表作として知られています。命そのもののありようを花で表現した中川の作品や制作態度は、ジャンルを超えて今なお多くの作家たちに影響を与えています。本展は、中川が自身のいけばなのために制作したガラス器を中心にその表現の世界を紹介するものです。

坩堝の中で溶解したガラスに感じた生命を花に重ね合わせ、ガラスを単なる花器としてではなく、花と等価の素材としていけばなの中で表現した中川のガラスには、血肉を持っているかのような生々しさ、生命感があります。中川幸夫の「花を生ける」ガラスであり、「生きた」ガラスをとおして、徹底して自由であり続けたその「命」の表現をご覧ください。



1. 西方へ／1994年／百合、精霊、サルビア、ユウカリ、鶴頭、金箔、自作ガラス　撮影：中川幸夫
2. ぼくの昆虫記／1990年／個人蔵　撮影：高橋章
3. 花神に／1975年頃／個人蔵　撮影：高橋章
4. 胎／1975年／貝、自作ガラス　撮影：野居義久
5. 花坊主／1973年／カーネーション800本、自作ガラス　撮影：牧直視

交通案内

○電車・バス／JR金沢駅から和倉温泉駅まで特急列車で約1時間、駅前から能登島交通「のとじま臨海公園ゆきバス」で約30分、「美術館前」下車すぐ

○車／金沢方面から…のと里山海道・徳田大津JCTを経由、能越自動車道・和倉ICから約20分
高山方面から…能越自動車道・水見ICを経由、七尾ICから約35分

○飛行機／のと里山空港から車で約1時間

次回展のお知らせ

探求と創作　2020年12月19日(土)～2021年4月18日(日)

ガラスという素材に対して沸き起こる好奇心や探究心を原動力に、作家が思索と試作を繰り返すなかで導き出したかたちと、その多様な表現を紹介。あわせて、近年収蔵となった作品もお披露目します。

◎新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催状況が変更になる場合があります。ご来館前に当館ホームページにてご確認くださいますようお願いいたします。

《 新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力ください 》

マスク着用　検温　手指の消毒　ソーシャル・ディスタンス（2m）

お問合せ／石川県能登島ガラス美術館
〒926-0211 石川県七尾市能登島向田町125部10番地 Tel 0767-84-1175 Email: glass@nanao-af.jp

石川県能登島ガラス美術館
NOTOJIMA GLASS ART MUSEUM